

同調志向尺度の作成

——規範的影響と情報的影響——

横田 晋大・中西 大輔¹

(受付 2010年10月5日)

要 旨

本研究の目的は、人々の同調の志向性を測定する尺度を作成することにある。特に、同調志向における、他者からの受容動機に基づく規範的影響と情報探索の動機に基づく情報的影響の二つの側面を弁別することが可能な尺度を作成した。研究1で90名、研究2で118名の回答者を対象にそれぞれ質問紙調査を実施した結果、確認的因子分析より、2因子が抽出された。各因子の信頼性を検討したところ、十分な内的整合性が確認された。

キーワード：同調，規範的影響，情報的影響

われわれ人間は、常に他者からの影響下において、様々な意思決定を行っている。個人の態度が社会的に形成される以上、社会から独立した意思決定というものは有り得ない。これまで社会心理学者は一貫して、こうした人間の本質的社会性を明らかにしてきた。Asch (1955)をはじめとする一連の同調研究は、明らかに誤った判断であっても、それが一枚岩の多数派によって示されていれば同調してしまうことを実験的に示しており、その後の社会的影響研究に大きな影響を与えた。他者の意見に同調する行動は、権威への盲従や集団浅慮などの重要な社会問題につながることから、Aschの研究以後も非常に多くの知見や理論が提出されてきた (e. g., Cialdini & Trost, 1998)。

同調 (conformity) とは、ある個人が、集団や他者の設定する標準ないし期待に沿って行動することと定義される。特に、集団状況で、他の成員が一致して自分とは異なる意見を主張するとき、同調は生じやすい (e. g., Asch, 1955)。そして、同調には、表面的なものから真の態度変化にいたるまで様々な形態が存在する。Deutsch & Gerard (1955)によれば、同調には“規範的影響”と“情報的影響”による動機づけが存在するという。規範的影響とは、多数派から受け入れられたいとの動機から生じる同調であり、自身の判断に確信が持てなかつ

1 研究の実施にあたり、広島修道大学人文学部人間関係学科心理学専攻の藤本珠実さん、丸山愛さん、横道聖美さんにご協力いただきました。記して感謝いたします。

たり、他者からの圧力を感じたりする状況で生じやすい。一方、情報的影響は、他者からより正確な情報を得ようとの動機から生じる同調である。特に、自分の判断や行動が正しいかどうかを直接確かめることができない場合、妥当な判断の拠り所として他者の意見や行動に求める行動と言える。

同調行動の生起に関する研究は、主に実験室実験を中心に、その知見が積み重ねられてきた (e. g., Asch, 1955; 黒澤, 1994)。一方で、人々が特性として持つ同調の“志向性”を調べた研究は少ない (藤原, 2006; Mehrabian & Stefl, 1995; 大西, 2008)。“同調しやすさ”に関する個人差は、集団全体の意見や行動の方向性、すなわち、マイクロ-マクロのダイナミクスにいかなる影響を与えるのだろうか。そのことを検討するためには、同調志向性の個人差を測定できる尺度の開発が必要である。Deutsch & Gerard (1955) を踏まえれば、他者への同調は、二つの異なる適応課題と関連すると考えられる。それは、集団の規範と一貫した行動を採ることと、正しい情報を得ることである。これらの課題解決には、それぞれの課題に対応した異なる心理メカニズムが働くと考えられる (Tooby & Cosmides, 1992)。従って、規範的影響と情報的影響を明確に区別した尺度を開発する必要である。従って、規範的影響と情報的影響を弁別した同調志向尺度は非常に数が少なく (Mascarenhas & Higby, 1993)、日本語版は皆無である。そこで、本研究では、規範的影響と情報的影響を弁別できる日本語版の同調志向尺度を作成することを目的とする。

研 究 1

研究 1 の目的は、Mehrabian & Stefl (1995) による The Conformity Scale の邦訳を通じて、規範的影響・情報的影響の二つの要因を軸とした日本語版同調志向尺度の質問項目を作成し、その信頼性を検討することにある。

方 法

回 答 者 調査対象者は、91名 (男性39名, 女性52名) であった。なお、全回答者のうち、回答に不備があった1名を除いた。よって、有効回答数は90名 (男性39名, 女性51名, 平均年齢28.8歳, $SD = 14.31$) であった。

手 続 き 調査は、個別自記入形式の質問紙調査で実施した。回答依頼時に文書で説明合意を得た。回答は無記名で行われた。実施時間は約7分であった。

調 査 内 容 本調査の質問紙はフェイスシート (性別・年齢) と新たに開発した同調志向尺度33項目から成っていた。同調志向尺度の質問項目は、Mehrabian & Stefl (1995) の The Conformity Scale を独自に邦訳した。The Conformity Scale の項目内容および日本語訳を Table 1 に示す。この尺度に加え、藤原 (2006) の同調行動志向尺度および大西 (2008)

Table 1. The Conformity Scale とその邦訳

項目 番号	Mehrabian & Steff (1995)	邦 訳
1	I often rely on, and act upon, the advice of others.	私は、しばしば他者のアドバイスを当てにし、それに従って行動する
2	I would be the last one to change my opinion in a heated argument on a controversial topic.	私は、議論を呼んだ話題に対して激しい議論で自分の意見を変える最後の一人になるだろう。
3	Generally, I'd rather give in and go along for the sake of peace than struggle to have my way.	全般的に、私は自分の意地を通すためにもがくよりも、むしろ平穩のために屈服して従うほうがよい。
4	I tend to follow family tradition in making political decisions.	私は、政治判断をする際には家風に従う傾向がある。
5	Basically, my friends are the ones who decide what we do together.	基本的に、私の友人は、私たちが一緒にすることについて決める人である。
6	A charismatic and eloquent speaker can easily influence and change my ideas.	カリスマ的で雄弁な話者は、容易に私の考えに影響を及ぼして、変えることができる。
7	I am more independent than conforming in my ways.	私のやり方は、同調するより独立することだ。
8	If someone is very persuasive, I tend to change my opinion and go along with them.	だれかが非常に説得力があるなら、私は、意見を変えて、その人と協力する傾向がある。
9	I don't give in to others easily.	私は容易には他者に従わない。
10	I tend to rely on others when I have to make an important decision quickly.	私は、すぐに重要な決定をしなければならないとき、人を当てにする傾向がある。
11	I prefer to make my own way in life rather than find a group I can follow.	私は、自分が従うことのできるグループを見つけるより、むしろ人生で私自身の道を作ることを好む。

の同調的対人態度尺度の項目を加え、全33項目から成る尺度を作成した。内訳は、規範的影響（18項目）、情報的影響（13項目）、その他（2項目）であった。項目内容を Table 2-1, 2-2, 2-3 に示す。33項目それぞれについて“1. 当てはまらない”, “2. あまり当てはまらない”, “3. どちらでもない”, “4. 少し当てはまる”, “5. 当てはまる”の5件法で回答を求めた。

Table 2-1. 同調尺度：規範的影響項目

項目 番号	項目内容
1.	みんなの中でなかなか自分を出せないと思うことがある
3.	私はグループの基準に従いがちである
6.	自分の主張を押し通して場を乱すくらいなら、何も言わない方が気が楽である
7.	グループに従うくらいなら、むしろ独立した方がよい (*)
9.	私は、グループに対して反対意見を容易に言うことができる (*)
10.	集団で話し合ったり何かするときには、率先して自分の意見を言う方だ (*)
11.	相手によって自分の態度や意見をすぐ変えるほうだ
12.	たとえ納得できなくても、しかたなく周りにあわせてしまうことが多い
14.	周りの考えがどうであろうと、自分の考えを押し通すほうだ (*)
15.	授業を履修する際、自分と同じグループの友達が自分の興味のない授業をとることになったら自分もその授業をとる
16.	グループの意見は個人の意見よりも重要である
19.	何か決断するときには、たいてい他の人と同じようにする
21.	話し合いの中で周りが意見を変えても、私は最後まで意見を変えないだろう (*)
22.	私は容易には他者に従わない (*)
23.	周囲の反応が気になってしまって、本心と違うことでも、周りの人に合わせて同意してしまうことがよくある
25.	友人と一緒に何かするときには、たいてい友人のほうが物事を決める
26.	私は、たとえそれが自分の信じていないことであってもグループに賛成する
30.	場を乱さないように、いろいろと人に合わせてしまうことが多い

※ 上記表中の (*) は逆転項目を指す

Table 2-2. 同調尺度：情報的影響項目

項目 番号	項目内容
02.	CD を購入する際には、雑誌やテレビのランキングや紹介を見て決める
04.	自分の好きな服でなくても、流行に合わせた服を着てしまうだろう
05.	授業を履修する際には、その授業の内容などの情報を他の人々から得て決める
08.	しばしば他者のアドバイスを当てにして、それにしたがって行動する
13.	専門家や著名人などの発言に影響を受けやすい
17.	自分の考えよりも、他者の判断の方が気になってしまう
18.	誰かの意見に非常に説得力があるなら、私は自分の意見をかえて、その人と協力する

項目番号	項目内容
20.	自分の意見が他者と一致すると、とても安心する
24.	外食に行くときには、その店の評価を調べてから行く
27.	他人が好ましい評価をしている物は、もともと自分が欲しい物でなくてもついつい買ってしまう
29.	私は、すぐに重要な決定をしなければならないとき、人を当てにする傾向がある
31.	しばしば、自分の判断が不安になり、人に合わせて自分の意見を変えることがある
33.	選挙など、政治的な判断をする際には親の意見に影響を受ける

Table 2-3. 同調尺度：その他

項目番号	項目内容
28.	周りの人々が信号無視をし始めたら自分もするだろう
32.	仲間の中で、自分だけ意見が違うと不安になる

結果と考察

同調志向尺度33項目について、2因子指定の因子分析（主成分分解、プロマックス回転）を行った。その結果、固有値は、それぞれ因子1が8.26、因子2が2.88であり、累積寄与率は33.75%だった。負荷量が.30以下と低い項目（13）や両因子に負荷が高かった項目（6, 13, 16, 19, 21, 29, 31）を削除し、再び因子分析を行った。結果をTable 3に示す。

因子1に負荷量が高い項目は、“たとえ納得できなくても、しかたなく周りにあわせてしまうことが多い”、“集団で話し合ったり何かするとき、率先して自分の意見を言う方だ”、“周囲の反応が気になってしまったり、本心と違うことでも、周りの人に合わせて同意してしまうことがよくある”など、周囲の人々の反応に敏感に反応し、受け入れられたいとの動機に基づく同調傾向であることから、規範的影響因子とした。13項目の信頼性係数（クロンバックの α ）を算出したところ、 $\alpha = .86$ と高い値を示したため、この因子を規範的同調因子とした。

因子2に高い負荷量を示した項目は、“相手によって自分の態度や意見をすぐ変えるほうだ”、“自分の意見が他者と一致すると、とても安心する”、“他人が好ましい評価をしている物は、もともと自分が欲しい物でなくてもついつい買ってしまう”など、判断の際、周囲の人の行動や意見を拠り所にしたいたいの動機、すなわち情報的影響に基づく同調傾向と解釈される。この11項目の信頼性係数（クロンバックの α ）を算出したところ、 $\alpha = .73$ と十分に

Table 3. 同調項目に関する因子分析

項目	項目内容	因子 1	因子 2	共通性	平均値	標準偏差
10.	集団で話し合ったり何かするときは、率先して自分の意見を言う方だ	.80	-.33	.57	2.93	1.19
09.	私は、グループに対して反対意見を容易に言うことができる	.78	-.13	.56	3.04	1.22
12.	たとえ納得できなくても、しかたなく周りにあわせてしまうことが多い	.71	.12	.58	3.54	1.07
23.	周囲の反応が気になってしまって、本心と違うことでも、周りの人に合わせて同意してしまうことがよくある	.70	.17	.60	3.33	1.02
25.	友人と一緒に何かするときには、たいてい友人のほうが物事を決める	.65	-.20	.38	2.98	1.09
14.	周りの考えがどうであろうと、自分の考えを押し通すほうだ	.64	-.25	.37	3.17	1.09
32.	仲間の中で、自分だけ意見が違っていると不安になる	.59	.38	.64	3.50	1.20
30.	場を乱さないように、いろいろと人に合わせてしまうことが多い	.55	.17	.40	3.67	1.06
26.	私は、たとえそれが自分の信じていないことであってもグループに賛成する	.55	.08	.34	2.66	0.99
03.	私はグループの基準に従いがちである	.48	.04	.25	3.51	1.12
01.	みんなの中でなかなか自分を出せないと思うことがある	.44	-.11	.18	3.26	1.21
22.	私は容易には他者に従わない	.44	.02	.20	3.10	1.03
07.	グループに従うくらいなら、むしろ独立した方がよい	.43	.14	.24	3.39	1.11
11.	相手によって自分の態度や意見をすぐ変えるほうだ	-.01	.72	.51	3.04	1.05
20.	自分の意見が他者と一致すると、とても安心する	.34	.56	.56	3.98	1.02
27.	他人が好ましい評価をしている物は、もともと自分が欲しい物でなくてもついつい買ってしまう	.16	.55	.39	2.17	1.07
24.	外食に行くときには、その店の評価を調べてから行く	-.27	.51	.25	2.58	1.43
17.	自分の考えよりも、他者の判断の方が気になってしまう	.39	.51	.53	3.41	0.98
05.	授業を履修する際には、その授業の内容などの情報を他の人々から得て決める	-.14	.51	.23	3.44	1.35

横田・中西：同調志向尺度の作成

項目	項目内容	因子 1	因子 2	共通性	平均値	標準偏差
18.	誰かの意見に非常に説得力があるなら、私は自分の意見をかえて、その人と協力する	-.35	.46	.23	4.14	0.74
04.	自分の好きな服でなくても、流行に合わせた服を着てしまうだろう	.02	.43	.19	1.91	0.96
02.	CDを購入する際には、雑誌やテレビのランキングや紹介を見て決める	.10	.41	.21	2.29	1.35
15.	授業を履修する際、自分と同じグループの友達が自分の興味のない授業をとることになったら自分もその授業をとる	.14	.39	.21	2.33	1.18
28.	周りの人々が信号無視をし始めたら自分もするだろう	-.01	.39	.15	2.47	1.34
33.	選挙など、政治的な判断をする際には親の意見に影響を受ける	-.15	.33	.10	2.42	1.30
因子寄与		6.23	2.61			
寄与率 (%)		.25	.11			
累積寄与率 (%)		.25	.35			
因子間相関		.32				

高い内的整合性が得られた。これより、因子 2 を情報的同調因子とした。以上より、同調志向は、規範的影響と情報的影響に弁別されることが示された。

ただし、これら 2 因子間の相関係数が $r = .32$ であり、規範的影響と情報的影響は完全に独立した因子なのか、それとも相互作用的な働きを持つのが不明である。特に、両因子に比較的高い負荷量を示す項目 (17, 18, 20, 32) がいくつか見られるなど、質問項目のワーディングが各因子の特徴を正確に捉えていない可能性が考えられる。続く研究 2 では、項目内容のワーディングの調整を行い、同調志向尺度の改善を試みた。

研 究 2

研究 2 の目的は、研究 1 で用いた尺度のワーディングを改良することにより、日本語版同調志向尺度の質問項目の妥当性を向上させ、その信頼性を検討することにある。

方 法

回答者 調査対象者は、118 名 (男性 46 名, 女性 72 名) であった。平均年齢は 21.9 歳 ($SD = 14.31$) であった。

手続き 調査は、無記名での個別自記入形式の質問紙調査で実施した。回答依頼時に文

書で説明合意を得た。実施時間は約10分であった。

調査内容 研究1で得られた結果に基づき、質問項目の一部の内容およびワーディングを変更した (Table 4)。全33項目のうち、研究1で因子1、因子2ともに因子負荷量の高かった4項目 (項目番号17, 18, 20, 32) は質問内容を変更し、規範的影響、情報的影響いずれかの項目に再び振り分けした。

ワーディングの変更は、項目番号2, 11, 19, 24, 29, 31の各項目について行い、それに合わせて、それぞれが規範的影響と情報的影響のどちらに分類されるかを振り分けた。更に、項目番号2と24は、質問内容についても変更した。また、項目番号11 “相手によって自分の

Table 4. 質問項目のワーディングおよび内容の変更

項目番号		質問項目の内容およびワーディングの変更	因子名
2	研究1	CDを購入する際には、雑誌やテレビのランキングや紹介を見て決める。	情報的
	研究2	観る映画を決めるときには、すでにその映画を観た人の評判を参考にする。	変更なし
11	研究1	相手によって自分の態度や意見をすぐに変えるほうだ。	規範的
	研究2	(削除)	—
16	研究1	グループの意見は個人の意見よりも重要である。	情報的
	研究2	グループでまとまった意見は個人の意見よりも重要である。	変更なし
19	研究1	何か決断するときには、たいてい他の人と同じようにする。	規範的
	研究2	何か決断するときには、自分だけ違う意見だとは恥ずかしい。	変更なし
24	研究1	外食に行くときには、その店の情報を調べてから行く。	情報的
	研究2	外食に行くときには、情報誌や口コミを参考にする。	変更なし
28	研究1	周りの人々が信号無視をし始めたなら自分もするだろう。	未設定
	研究2	周りの人が信号無視をしていたら自分も安全だと思う。	情報的
29	研究1	私は、すぐに重要な決定をしなければならないとき、人を当てにする傾向がある。	情報的
	研究2	私は、すぐに重要な決定をしなければならないとき、自分の判断の正しさを確認するために他人の行動を参考にする。	変更なし
31	研究1	しばしば、じぶんの判断が不安になり、人に合わせて自分の意見を変えることがある。	情報的
	研究2	しばしば、自分の判断の正しさに確信が持たなくなり、周囲の人の意見を参考にすることがある。	変更なし
32	研究1	仲間の中で、自分だけ意見が違ふと不安になる。	未設定
	研究2	仲間の中で、自分だけ意見が違ふと気まずい。	規範的

態度や意見をすぐに変えるほうだ”は表現が曖昧であり、規範的影響と情報的影響の分類が困難であったため、項目そのものを削除した。研究1で項目を“その他”にしていた16と28は、それぞれワーディングを変更し、情報的影響項目とした。

以上より、同調志向尺度は、規範的影響（全16項目）と情報的影響（全16項目）の計32項目で構成された。規範的影響の項目内容を Table 5-1、情報的影響の項目内容を Table 5-2 にそれぞれ示す。32項目それぞれについて、“1：当てはまらない”，“2：あまり当てはまらない”，“3：どちらでもない”，“4：少し当てはまる”，“5：当てはまる”の5件法で回答が求められた。

Table 5-1. 同調志向尺度：規範的影響項目

項目番号	項目内容
1.	自分の主張を押し通して場を乱すくらいなら、何も言わない方が気が楽である
3.	周囲の反応が気になってしまって、本心と違うことでも、周りの人に合わせて同意してしまうことがよくある
5.	たとえ納得できなくても、しかたなく周りにあわせてしまうことが多い
7.	友人と一緒に何かするときには、たいてい友人のほうが物事を決める
9.	仲間の中で、自分だけ意見が違っていると気まずい
11.	何か決断するときには、自分だけ違う意見だと恥ずかしい
13.	場を乱さないように、いろいろと人に合わせてしまうことが多い
15.	私は、たとえそれが自分の信じていないことであってもグループに賛成する
17.	私はグループの基準に従いがちである
19.	みんなの中でなかなか自分が出せないと思うことがある
21.	話し合いの中で、周りが意見を変えても、私は最後まで意見を変えないだろう (*)
23.	グループに従うくらいなら、むしろ独立した方がよい (*)
25.	私は容易には他者に従わない (*)
27.	周りの考えがどうであろうと、自分の考えを押し通すほうだ (*)
29.	集団で話し合ったり何かするときには、率先して自分の意見を言う方だ (*)
31.	私は、グループに対して反対意見を容易に言うことができる (*)

※ 上記表中の(*)は逆転項目を指す

Table 5-2. 同調志向尺度：情報的影響項目

項目 番号	項目内容
2.	自分の意見が他者と一致すると、とても安心する
4.	自分の考えよりも、他者の判断の方が気になってしまう
6.	他人が好ましい評価をしている物は、もともと自分が欲しい物でなくてもついつい買ってしまう
8.	授業を履修する際、自分と同じグループの友達が自分の興味のない授業をとることになったらその授業は面白いかもしれないと思い、自分もその授業をとる
10.	誰かの意見に非常に説得力があるなら、私は自分の意見をかえて、その人と協力する
12.	しばしば、他者のアドバイスを当てにして、それにしたがって行動する
14.	授業を履修する際には、その授業の内容などの情報を他の人々から得て決める
16.	自分の好きな服でなくても、流行に合わせた服を着てしまうだろう
18.	外出に行くときには、情報誌や口コミを参考にする
20.	周りの人々が信号無視をしていたら自分も渡っても安全だと思う
22.	見る映画を決めるときには、すでにその映画を見た人の評判を参考にする
24.	グループでまとまった意見は個人の意見よりも正しいことが多い
26.	選挙など、政治的な判断をする際には親の意見に影響を受ける
28.	専門家や著名人などの発言に影響を受けやすい
30.	しばしば、自分の判断の正しさに確信が持たなくなり、周囲の意見を参考にすることがある
32.	私は、すぐに重要な決定をしなければならないとき、自分の判断の正しさを確認するために他人の行動を参考にする

結果と考察

32項目について、2因子指定の因子分析（主成分分解、プロマックス回転）を行った。その結果を踏まえ、負荷量が.30以下の項目や両因子に同程度の負荷量だった項目を削除し、再び因子分析を行った。結果を Table 6 に示す。

因子1に負荷量が高い項目は、“場を乱さないように、いろいろと人に合わせてしまうことが多い”、“たとえ納得できなくても、しかたなく周りにあわせてしまうことが多い”など、周囲の人々の反応に敏感に反応し、受け入れられたいとの動機に基づくものだった。信頼性係数（クロンバックの α ）を算出したところ、 $\alpha = .87$ と十分な値であることから、この因子を規範的同調因子とした。

因子2に高い負荷量を示した項目は、“外出に行くときには、情報誌や口コミを参考にする”、“自分の意見が他者と一致すると、とても安心する”など、判断の際、周囲の人の行動

Table 6. 同調志向尺度の因子分析

項目番号	項目内容	因子1	因子2	共通性	平均値	標準偏差
13.	場を乱さないように、いろいろと人に合わせてしまうことが多い	.80	-.05	0.62	3.48	1.04
05.	たとえ納得できなくても、しかたなく周りにあわせてしまうことが多い	.76	-.24	0.52	3.36	1.03
01.	自分の主張を押し通して場を乱すくらいなら、何も言わない方が気が楽である	.72	-.11	0.48	3.90	1.16
03.	周囲の反応が気になってしまって、本心と違うことでも、周りの人に合わせて同意してしまうことがよくある	.68	.13	0.53	3.41	1.05
17.	私はグループの基準に従いがちである	.66	-.09	0.41	3.06	1.07
19.	みんなの中でなかなか自分が出せないと思うことがある	.64	-.25	0.37	2.97	1.21
04.	自分の考えよりも、他者の判断の方が気になってしまう	.63	.13	0.46	3.05	1.11
15.	私は、たとえそれが自分の信じていないことであってもグループに賛成する	.59	.03	0.36	2.62	0.91
09.	仲間の中で、自分だけ意見が違うと気まずい	.55	.23	0.43	3.15	1.24
30.	しばしば、自分の判断の正しさに確信が持てなくなり、周囲の意見を参考にすることがある	.51	.22	0.37	3.50	1.04
27.	周りの考えがどうであろうと、自分の考えを押し通すほうだ	.50	.26	0.39	3.12	1.03
07.	友人と一緒に何かするときには、たいてい友人のほうが物事を決める	.43	-.01	0.18	2.97	1.05
10.	誰かの意見に非常に説得力があるなら、私は自分の意見をかえて、その人と協力する	.41	.28	0.32	3.74	0.97
18.	外食に行くときには、情報誌や口コミを参考にする	-.21	.61	0.34	2.95	1.36
02.	自分の意見が他者と一致すると、とても安心する	.17	.59	0.44	3.95	0.99
22.	見る映画を決めるときには、すでにその映画を見た人の評判を参考にする	-.12	.58	0.31	2.92	1.19
14.	授業を履修する際には、その授業の内容などの情報を他の人々から得て決める	-.08	.54	0.27	3.53	1.27
23.	グループに従うくらいなら、むしろ独立した方がよい	.24	.51	0.39	3.61	1.02

項目番号	項目内容	因子1	因子2	共通性	平均値	標準偏差
20.	周りの人々が信号無視をしていたら自分も渡っても安全だと思う	-.08	.49	0.22	2.53	1.33
26.	選挙など、政治的な判断をする際には親の意見に影響を受ける	.25	.43	0.31	2.49	1.29
16.	自分の好きな服でなくても、流行に合わせた服を着てしまうだろう	-.05	.42	0.17	1.82	0.91
32.	私は、すぐに重要な決定をしなければならないとき、自分の判断の正しさを確認するために他人の行動を参考にする	.24	.41	0.29	3.47	0.91
24.	グループでまとまった意見は個人の意見よりも正しいことが多い	.13	.31	0.14	3.01	0.85
因子寄与		6.08	2.26			
寄与率 (%)		26.43	9.83			
累積寄与率 (%)		26.43	36.25			
因子間相関		.31				

や意見を抛り所にしたいとの動機に基づくものだった。その内的整合性（クロンバックの α ）は、 $\alpha = .70$ と十分であったため、因子 2 を情動的な同調因子とした。

以上より、人々の同調志向における規範的影響と情動的な影響の側面が示された。なお、これら 2 因子間の相関は $r = .31$ であり、研究 1 とほぼ同じ値であった。このことは、規範的影響と情動的な影響は完全に独立した概念ではないことを示唆している。

総 合 考 察

本研究の目的は、規範的影響と情動的な影響を軸とした同調志向尺度を作成し、その妥当性を検討することにあつた。そのため、Mehrabian & Steff (1995) の The Conformity Scale をベースとした 32 項目の同調志向尺度を作成し、その信頼性を検討した。因子分析の結果、規範的影響因子 13 項目と情動的な影響因子 10 項目が抽出されたため、これら計 23 項目を同調志向尺度として採用した。これら規範的影響因子と情動的な影響因子のそれぞれの信頼性係数は高く、十分な内的整合性が確認された。

興味深い点として、研究 1 と 2 を通じて、2 因子間に弱い正の相関がみられたことが挙げられる。これは、規範的影響と情動的な影響が完全に独立した概念ではないことを示している。すなわち、規範に従うように同調しやすい人の中には、同時に他者の情報を参照しやすい傾向を持つ人もいることを意味する。ただし、ここには情報提供者の性質という要因が混

交している。情報的影響は、その情報提供者が重要な他者か否かにより、影響力が異なる (Mascarenhas & Higby, 1993)。もし、回答する際、回答者が情報提供者を一般他者やメディアなどの“規範”を示す代表的な存在を思い浮かべていたとしたら、それは規範的影響と捉えることも可能である。従って、情報的影響と規範的影響が正の相関関係にあることは十分考えられる。今後は、情報的影響を測定する尺度において、その情報元が誰なのかを明確に弁別する必要があるだろう。

本研究の限界は2点ある。まず、尺度としての構成概念妥当性が十分検討されていない点である。本研究で開発した同調志向尺度が他の類似する尺度あるいは行動指標とどのような関連にあるか、検討作業が行われていない。今後の課題として、同調志向尺度と関連すると考えられる尺度 (相互協調的自己観 [Markus & Kitayama, 1991] など) あるいは実験室場面での行動との関連を検討する必要がある。もう1点は、N数が十分でない点である。今後は、十分なN数を確保したうえで、尺度構成の検討を行うべきであろう。

引用文献

- Asch, S. E. (1955). "Opinions and social pressure." *Scientific American*, **193**, 31-35.
- Cialdini, R. B., & Trost, M. R. (1998). "Social influence: Social norms, conformity, and compliance." In D. Gilbert, S. Fiske, & G. Lindzey (Eds.). *The handbook of social psychology*, (4th edition) vol. 2, pp. 151-192. New York: McGraw-Hill.
- Deutsch, M. & Gerard, H. B. (1955). "A study of normative and informational social influence upon individual judgment." *Journal of Abnormal and Social Psychology*, **51**, 629-639.
- Festibger, L. (1953). "Analysis of compliant behavior." In M. Sherif & M. O. Wilson (ed.), *Group relations at the crossroads*. New York: Harper.
- 藤原正光 (2006). 「同調行動志向尺度・個人行動志向尺度作成の試み (1) —大学生による小5時代の回想から」『文教大学教育学部紀要』, **40**, 1-9.
- Kelman, H. (1958). "Compliance, identification, and internalization: Three processes of attitude change." *Journal of Conflict Resolution*, **1**, 51-60.
- 黒沢 香 (1993). 「多数派への同調に対する自己意識と自尊心の影響」『心理学研究』, **63**, 379-387.
- Markus, H. R., & Kitayama, S. (1991). "Culture and the self-Implications for cognition, emotion, and motivation." *Psychological Review*, **98**, 224-253.
- Mascarenhas, A. J. O. & Higby, M. A. (1993). "Peer, parent, and media influences in teen apparel shopping." *Journal of the Academy of Marketing Science*, **21**, 53-58.
- Mehrabian, A., & Stefl, C. A. (1995). "Basic temperament components of loneliness, shyness, and conformity." *Social Behavior and Personality*, **23**, 253-264.
- 大西将史 (2008). 「同調的対人態度尺度の作成」『日本教育心理学会総会発表論文集』, **50**, 343.
- Tooby, J., & Cosmides, L. (1992). "The psychological foundations of culture." In J. Barkow, L. Cosmides, & J. Tooby (Eds.), *The adapted mind: Evolutionary psychology and the generation of culture* (pp. 19-136), New York: Oxford University Press.

Summary

Development of the conformity orientation scale

—Informative influence and normative influence—

Kunihiro Yokota and Daisuke Nakanishi

In this study, we aimed to design and test the reliability of a new conformity orientation scale, designed to assess two facets of conformity: normative social influence and informational social influence. 90 participants in study 1 and 118 participants in study 2 responded to the conformity orientation scale, consisting of 33 items in study 1, and 32 items in study 2. Confirmatory factor analysis found that the scale could be divided into two factors, representing normative and informational social influence on conformity. In addition, we confirmed the reliability of each factor.

Keywords: conformity, normative social influence, informational social influence